

創作活動に入る前に『さくらさくら』の本手と後弾きで学習した、押し手※¹や掻き爪※²、割り爪※³、チラシ爪※⁴など箏特有の奏法を、効果的に使うように促します。

箏特有の奏法

- ※1 押し手：左手で弦を押し下げ、張力を変化させて音程を上げる奏法
- ※2 掻き爪：「シャッ」と向こうから手前に引っ掻くように弾く奏法
- ※3 割り爪：「シャシャ」と2回指を替えながら引っ掻くように連続して弾く奏法
- ※4 チラシ爪：「シュー」と爪の側面で弦をこする奏法

教師は、掻き爪や割り爪を使う場合は、「シャッテン」や「シャシャテン」のようにオクターブ上の音を伴う場合が多いことも説明しておきます。



ウ 本手と合わせての試し弾き

創作の手直しをしたり、2面の箏のテンポをそろえたり、パートの入れ替わりの部分の練習をしたりします。

エ 1面ごとの演奏者の交替のタイミングの決定

交替の部分に休符が入っていると慌てなくてすみます。演奏者がスムーズに交替するのも腕の見せ所の一つとなります。

オ 創作の仕上げと演奏順番の決定

生徒は、自分たちのグループが何段目を担当するか確認します。



カ 段物作品「〇段桜」の演奏と相互評価

演奏では、段ごとの間がなるべく空かないようにした方が、全体を通して聴いた時に美しく聴こえます。ただし、段の前後で大きくテンポが異なる場合などには、自然な「間」の取り方を工夫してみる方法も考えられます。